

経営情報学会第20回学生研究論文発表会の開催報告

関西支部運営委員 仙波真二（せんば しんじ）
近畿大学経営学部

1. 概要

毎年恒例となりました学生論文発表会を関西支部の運営により2025年2月22日（土）に大阪公立大学梅田サテライトにてハイブリッド形式（対面＋オンライン）で開催いたしました。この発表会は経営情報関連の研究を行っている学部、修士・博士前期課程、ならびに博士・博士後期課程を卒業または修了予定の学生に卒業論文、修士論文、博士論文での研究成果を発表する機会を与え、質疑応答を通じてよりよい研究へと発展させるための一助とし、さらに、経営情報関連分野の研究・教育の進展に資することを目的に、2005年度より年度末に開催しております。

2. 発表会について

今回は卒業論文7件、修士論文3件の推薦を受け、計10件の報告が行われました。それぞれの発表者とタイトルは次のとおりです。

発表者の氏名とタイトル

卒業論文の部（7件）

齋藤智也（芝浦工業大学システム理工学部） 志願者データの感情的文脈を考慮した就業後評価予測モデルの開発
楊 芋帆（静岡大学情報学部） アニメ聖地巡礼現象のビジネス・エコシステムの形成プロセス
山下優奈（近畿大学経営学部） 商品本来の価値と消費者が判断する価値の差異についての研究 シャウエッセンのおいしさの秘密から
西田真唯（近畿大学経営学部） 旅行費用と旅行満足度の関係性について
遠藤愛斗（東京都市大学環境学部） サステナビリティ実現政策の相互作用の理解促進に向けたシステムダイナミクスに基づくシリアスゲームの試作

児玉拓海（東京都市大学環境学部） 経営判断を反映可能なビジネスゲーム型仮想実験環境構築法の提案
島田拓飛（大阪府立大学知情報システム学類） テレワークの普及要因と労働者に与える影響

修士論文の部（3件）

田村壮礼（立教大学大学院ビジネスデザイン研究科） 自動車業界における目標推移と内部資源との不正要因分析—燃費不正への意図性から—
尚 玉成（芝浦工業大学大学院理工学研究科） 不完全なフィードバックを伴うセッションベース推薦システムのためのデータ拡張方法
岡本育実（東京理科大学大学院経営学研究科） 企業のCSR活動とSPOへの成長を促進するメカニズム

1人あたりの報告時間を卒業論文は発表10分・質疑5分、修士論文は発表15分・質疑10分と定め、研究内容についてのプレゼンテーションと活発な質疑応答が行われました（写真1～3）。

また、各発表者からは事前にそれぞれの論文での研究内容をまとめた予稿を4ページで作成していた、それらをまとめた発表論文要旨集の発行も行いました。



写真1 発表の様子



写真2 発表の様子



写真3 発表の様子

3. 表彰式について

すべての発表が終了後、関西支部運営委員のメンバーで構成する審査委員会によって、各発表者の予稿、発表および質疑の内容を審査し、最優秀賞、優秀賞を決定しました。各賞の受賞者は次のとおりです。

■最優秀賞

岡本育実さん（東京理科大学大学院経営学研究科）



写真4 最優秀賞受賞の岡本育実さん



写真5 受賞あいさつの様子（岡本育実さん）

■優秀賞

楊 芊帆さん（静岡大学情報学部）



写真6 優秀賞受賞の楊芊帆さん
（左上、Zoom参加）

また、他の発表をいただいたすべての学生に対し論文賞が授与されました。

4. おわりに

大会の締めくくりとして、関西支部の森田裕之先生より総評のお言葉をいただきました。まず、審査に関して、各審査員が「独創性・応用可能性・堅実性」の観点で評価を行い、全審査員の総合点で最優秀賞と優秀賞が選定されたことが説明されました。次に、研究態度に関して、自分の足でデータを入手した研究に対するポジティブなフィードバックがされました。最後に、今後の研究活動へのアドバイス



写真7 対面参加者による記念撮影

として「近年は研究を補佐する技術が発展しているが、それに引きずられることなく、研究を支えるための論理的思考力や学術的な基礎力を研鑽してほしい」との言葉が贈られました。

最後に、渡邊真治関西支部長より、すべての発表者および参加者への謝意が表され、全プログラムを終了しました。最後まで参加いただきました皆さま、ありがとうございました。

本発表会は経営情報学会の研究活動の一環として実施しており、次年度も引き続き学生研究論文発表会を開催予定です。次年度も全国より多数の発表および参加のお申し込みがあることを期待しております。